雜 纂

麻疹經過中ノ上氣道ノ狹窄 [2]

Die Stenosen der oberen Luftwege im
Verlauf der masern.

von Dr. Marianne Heinz.

(Aus Zeitschrift für Kinderheilkunde, 61 Bd, Heft. 1.)

3) 潰瘍性喉頭炎。

「カタル」性咽喉頭炎ハ、麻疹ノ際ニ於テ最モ頻繁ナル合併症デハアルガ、重要サニ於テ、今カラ述ベル他ノ喉頭疾患、即チ潰瘍性喉頭炎ニ劣ツテキル。此所見ハ、此病氣ガ麻疹合併症トシテ餘リ知ラレテキナイ爲ニ、全ク特殊ナ興味ガアル。著者ハ斯カル例ノ243例ニ就キ報告シテキル。先ヅ病理解剖ノ概略ヲ述ベル。其名ノ示ス如ク、本態ハ潰瘍形成デアル。此潰瘍ハ大麻木或ハ、「リンゼ」大或ハソレ以上デアリ、融合スル傾向ヲ有シテキル爲ニ不規則ニ區劃サレタ所ノ地圖狀ノ組織缺損ヲ作ル。潰瘍ハ淺ク、屢々表皮缺損ニ過ギヌコトサヘアルノデ、表面的ナ觀察デハ之ヲ見逃スコトガアル。其邊緣ハ銳利デアル。聲帶ニ於テハ、潰瘍ハ屢々裂口狀ヲナス。深部ニマデ達スル組織缺損ハ、今此處デ述ベテキル喉頭炎ノ所見ニハ屬サナイト云フコトヲ銘記シテ置カネバナラナイ。發生部位ハ種々デアルガ、最モ多クハ聲帶ニ見、更ニ會厭軟骨、前及ビ後連合ニ、稀ニハ披裂軟骨、披裂會厭靱帶、披裂軟骨間靱帶ニ見ラレ、全ク稀ニ梨子狀窩ニ見ラレル。自ラ明カナル如ク、此潰瘍ハ「サフテリー」桿菌ニトツテ、良好ナル培養基トナル。實際我々ハ斯様な例ヲ見テキル。此病氣ハ屢々無症狀ニ經過スルノデ、243例ノ内199例ニ於テ、死體解剖ニヨリ所見ガ明白ニナツタ。併シ潰瘍ガ會厭軟骨、或ハ披裂軟骨上ニ在リ、臨牀的ニハ嗄聲ガ認メラレヌ場合トカ、潰瘍ガ聲帶ヲ侵シテキル場合ニハ、ソレト判ルデアラウ。此事ハ例ヘ正シイコトニセヨ。例外ハアル。斯カル場合所見ハ全ク反對ニナル。此關係ニ於テハ、副行浮腫ガ役割ヲ演ズル。之ハ解剖臺上ニ於テハ、生時ノ如クハ證明サレナイ。臨牀的ニ診斷ヲツケラレル様ナ場合ニ

ハ、第一ニ長ク持續シテキル嗄聲ガ目ニ付ク、規則トシテハ狹窄症狀ハ來ナイノデアアルガ、24例ニ於テハ輕度ニ、7例ニ於テハビドク來タ。4例ニ於テハ氣管切開ガ施行セラレタ。潰瘍性喉頭炎ハ多ク肺合併症ノ重症患兒ニ見ラレタノデアアル。ソコデ著者ハ此場合之ハ單獨ニハ來ナイト主張スルノデアアル。死ノ轉歸ヲ取レル材料ノ精査ニヨリ、此結論ハ自ラ明カナルモノトナル。何トナレバ、潰瘍性喉頭炎ハ、夫レ自身デハ重症ナル疾患デハナク、患兒ガ他ノ理由デ、最モ屢々肺炎ニテ死亡シタル時ノノミ、解剖臺上ニ明カニナルモノデアアル。嗄聲ノ經過ニ關シテ言フナラバ顯著ナルコトハ其頑固サデアリ。一日中完全ニ不變ナル儘ニ追マリ、極ク稀ニ上述ノ如ク重イ狹窄ガ起ル。

次ニハ年齡ノ關係デアルガ、此場合斯様なコトハ大シテナイ様ニ見エル。

最後ニ、茲ニ述ベタ喉頭炎ハ、合併症トシテ口腔粘膜ノ變化ヲ一般ニ伴ハ無イノデアラウカ。併シ著者ハ其多數ノ經驗例中ニ、定型的ノ潰瘍性喉頭炎ガ、口腔粘膜ノ口内炎ノ過程ヲ伴ツテ來タ例ヲ見テキル。斯様な場合、別種ノ口内炎ノ過程ガアルノデハナク、ソレガ二次的ニ喉頭ヲ侵シタノデハナカラウカト云フ疑問ガ起ル。此疑問ニハ殆ド答ヘラレヌ。殊ニ麻疹ハ合併症トシテ口内炎ヲ起ス。

4) 「アフタ」性喉頭炎。

我々ハ、口内炎ノ過程ニ就テハ何等決定ノ事ハ言ヘナイガ、「アフタ」性口内炎ガ喉頭ヲ侵スコトニヨツテ發生スル所ノ「アフタ」性喉頭炎ニ於テハ、ヨク知ラレタ病氣所見ガアル。此口内炎型ニ特有ナル發疹ヲ見ル。即チ多發性ノ水疱、ソレカラ發生セル所ノ綺麗ナ或ハ苔被ヲ有スル潰瘍、之ハ喉頭ノミナラズ、頰部粘膜、苔舌、梨子狀窩、及ビ食道ニモ發生スル。多發的發生、發赤皰、「アフタ」性口内炎トノ合併等ハ、一見シテ「アフタ」性喉頭炎ヲ區別セシメル。

著者ハ8例此様な例ヲ報告シテキル。臨牀的ニハ、殆

ト常ニ先ヅ口内炎ガ發生シ、之ニ咽聲ガ合併シテ來ル。著者ハ咽聲ガ口腔炎症ニ先驅セル場合ヲ4例見テキル。喉頭變化ハ著シキ狭窄ヲ惹起セシムルコトガ出來ル。氣管切開ヲシナケレバナラナカツタ症例モアル。死因ハ大抵ハ肺炎ノ様ニ見エル。夫レ自身デハ死ノ原因トナル様ナ病氣デハナイ所ノ、潰瘍性喉頭炎ノ場合ノ狀態トヨク類似シテキル。年齢ニ關シテハ、18例ノ内15例マデガ2歳以下デアツタ。

5) 軟骨膜炎。

喉頭ノ軟骨膜炎ハ、同様ニ副行性浮腫ニヨリテ喉頭狭窄ヲ惹起セシメラレル。此疾患ハ少數ナリトハ言ヘ、著者ハ之ヲ13例觀察シテキル。軟骨膜炎ハ二種類ノ方法ニヨリ發生シ得ルト考ヘラレル。第一ハ喉頭ノ潰瘍カラソレガ常ニ深部ニ侵蝕シテ、二次的ニ軟骨ヲ侵スモノデアル。第二ニ喉頭炎ガ轉移ノ通路ヲ通り、一次的ニ發生スルト云フ可能性ガアル。12例ヲ精査スルナラバ、其發生種類ニ關シテハ結論ヲ得ルコトハ出來ナイ。其發生及ビ解剖學的像ガ同一デナイカラ益々サウデアル。他ノ轉移化膿菌ガ缺ケテキルナラバ、數個ノ例外ハ別トシテ、大部分ノ場合軟骨膜炎ノ轉移性デアルト云フコトニハ一致シナクナル。ソレデ我々ハ、第一ニ潰瘍性過程カラ、二次的ノ發生ヲ考ヘナケレバナラナイ。

此疾患ニ於テハ、咽聲ト狭窄症狀ノ他ニ診斷ニ必要ナ他ノ症狀ガアル。先ヅ第一ニ頸部外部ノ腫脹ト發赤及ビ罹患軟骨部ノ壓痛ガ特異的デアル。更ニ頸部ノ強直ガ目ニ立ツ。又時々ハ嚥下痛モアル。壓ハ患兒ハ恰モ敗血症ノ様ナ症狀ヲ呈スルコトガアル。侵サレル軟骨ニ關シテハ、次ノ分類ガアル。披裂軟骨ガ5例、甲狀軟骨ガ5例、環狀及ビ會厭軟骨ガ各々1例ツツ。

5) 氣管枝淋巴腺結核。

今マデハ、障礙ガ上氣道ソレ自身ニアル場合ノ狭窄ニ就キ述ベテ來タ。併シ氣管及ビ氣管枝ノ壓迫ニヨル狭窄モ亦起リ得ル。最モ頻繁ナノハ氣管枝淋巴腺結核デアル。併シ斯様ナ例ガ狭窄ノ原因トナルコトハ稀ナモノデアリ、著者モ其龐大ナ症例ノ中ニ5例ヲ見テキルニ過ギナイ。

治癒ノ轉歸ヲ取ツタ症例

第二分類ニ於テハ、著者ハ麻疹ト狭窄ニヨル合併症ヲ有シテ然モ治癒シ退院セル患兒ニ就キ報告シテキル。死亡例ニ於テハ、我々ノ診斷ヲ死體解剖所見

ト對稱スル事ガ出來タガ、此部類ニ於テハ種々ノ症狀ヲ唯一ノ類リニシナクテハナラナイ。回復シ退院セル患兒ノ場合ノ診斷決定ハ、次ノ様ナコトニヨツテ困難ニナル。即チ個々ノ症狀ガハツキリトハ區別サレズニ、甚ダ曖昧ナ輕症ガ數多アルト云フコトデアル。此事ニ依リ、喉頭變化ノ種々ノ型ノ分類ハ、ヨリ困難ニナツテ來ル。喉頭鏡ヲ靜止シテ持ツテキルコトガ出來ナイトイフ事、唾液分泌過多ガ、像ヲ隠スコト、デ、幼兒ニ於テハ喉頭鏡検査ハ中止シナケレバナラナイ。純診斷學の基礎カラ、麻疹ニ於テ検査スルト云フコトハ、肺炎ノ危險ノ多イ麻疹兒ニ於テハ勿論禁忌デアル。

此場合狭窄ヲ次ノ二ツノ群ニ分ケルコトハ合目的ダト思フ。

1. 麻疹喉頭炎。

2. 他ノ麻疹合併狭窄。

麻疹喉頭炎ハ、主ニ第一期ノ疾患デアリ、合併症デハナク、一症狀デアリ、麻疹ノ前驅症デアル。以上ノコトハ良ク知レテキルコトデアルカラ、此章デハ簡單ニ述べル。多クソレハ定型的ノ咽レタ咳嗽ノミデアルガ、時トシテ症狀ハ惡化シテ狭窄トマデナリ、餘リ經驗ノ無イ人ハ、「クループ」トシテ病院ニ收容スル様ナコトガ起ル。此狭窄ハ一過性ノモノデアリ、發疹ノ出現ト共ニ消失スルモノデアル。勿論死亡例ノ中ニハ次ノ様ナモノモアル。即チ例外的ニ、「クループ」ガ麻疹前驅期ニ起リ得ルトイフ様ナ場合デアル。

又前驅期喉頭炎ガ長イ間存在スルトカ、又ハソレガ初メハ輕カツタガ、後ニナツテヒドクナルトカ、後ニナツテ初メテ來ルトカニヨツテ、後期ニモ亦「カタル」性喉頭炎ガアル。此喉頭炎ノ型ハ、他ノ狭窄ニ對シテ鑑別診斷學的ノ困難ヲ來タシ、潰瘍性喉頭炎及ビ喉頭「アフテリー」トハ確然ト區別出來ヌコトガ屢々アル。

他ノ狭窄ノ内「アフタ」性喉頭炎ハ最モ簡單ニ判ルガ、ソレハ全ク珍シク、ソレ故我々が考察スル場合大シタ役ハ演ジナイ。著者ハ20例ヲ報告シテキル。診斷ハ同時ニ存在スル「アフタ」性口内炎ニヨツテ樹立サレル。臨牀的ニハ咽聲ガ認メラレ、5例ニ於テハ陷没ヲ有スル狭窄症狀ヲ示シタ。患兒ノ内9例ハ2歳デアリ、他ハ3歳ト5歳ノ間デアツタ。

又潰瘍性喉頭炎ノ所見ハ、觸部臺ノ上デハ良ク知レ

テキルガ、稀ニシカ生キテキル時ニ此病氣ノ診斷ヲ附ケルコトハ出來ナイ。例ヘバ長ク續ク間斷ナキ咳嗽アラバ、此喉頭變化ガ怪シイトハ言ヘ、之ハ「カタル」性喉頭炎ノ診斷ニ對スル充分ナル反證トハナラナイ。

最も重要ニシテ、臨牀的ニ人ノ心ヲ動カスノハ、此場合モ亦喉頭「ザフテリー」デアル。疑ハシイ場合ニハ、培養成績ガ確實トマデハ言ヘヌガ、價值アル補助手段トナル。著者ハ斯様ナ例ヲ167例報告シ得ルト言ヒ、其内70例ハ輕症、55例ハ重篤ナ狹窄ヲ示シタ。最後ノ重症ノ内ノ16例ハ、挿管法ニヨリ危險ヲ脱シ、21例ハ氣管切開ヲサレナケレバナラナカツタ。此67例ノ患兒ノ内109例ハ、此合併症ノ爲メ初メテ病院ニ送ラレ、他ハ著者ノ臨牀デ「クループ」ヲ得タ。

全ク輕症ニ出現スルト云フコトヲ除クト、治癒ニ赴イタ麻疹「クループ」モ其經過ニ於テ、其死亡例ニ比シテ何ノ差異モナイ。第一番ノ症狀トシテ咳嗽ガ目ニ立ツ、之ハ通常2日カラ8日ノ時間的間隔ニ於テ出現シ、狹窄ノ例ニ於テハ、之ハ速カニ進行シ、ソレデ氣管切開ノ必要ナ場合デハ、合併症出現後1日目カ2日目デ行ハレネバナラナカツタ。年齢の分類ニ關シテハ、治癒例ト死亡例トノ間ニハ明カナ差異ガアル。死亡例ト對照シテ見ルト、比較的年トツタ小兒ガ此場合多イノニ、一方1歳ノ小兒ハ少イ。肺合併症モ、治癒例ニ於テハ影ヲ潜メ、著者モ20例ヲ見、其内9例ハ氣管切開ヲ行ツテキル、ソレヨリシテ體溫ニ就テノ結論ヲ得ル。著者ハ其第一部類ニ於テ次ノ様ナコトヲ述ベタ。即チ「クループ」ハ一般ニ無熱或ハ亞熱ノ狀態デ發症シ、高熱ハ主ニ肺合併症ニ因リ起サレルト。ソレデ著者等ハ、治癒例ニ於テモ亦38.5°マデノ體溫ニナツタ例ハ18例シカ見テキナイシ、高熱ハ5例シカ見テキナイ。

最後ニ著者ハ、死亡例ニ比較シテ、如何ナル因子ガ治癒例ニ好影響ヲ與ヘテキルカニ就キテ意見ヲ述ベテキル。此問題ハ困難ナコトデハアルガ、此結果ヲ簡單ニ經メル爲ニ狹窄ノ輕重、肺合併症、年齢ヲ擧ゲテキル。勿論之等ハ流行病勢ニヨリテ常ニ變化スル。

鑑別診斷 前章ニ於テハ、死亡及ビ治癒例ヲ選ンデ述ベテ來タガ、以上ノ研究ヲ鑑別診斷ニ如何ニ利用スルカノ場合ニナツタ。上述ノ如ク、ソレハ屢々

困難ニ遭遇スルガ、麻疹ノ際ニハ、狹窄ガ頻繁デアリ、種々雜多ナル爲ニ非常ニ重要ナコトデアル。吾々ハ「カタル」性喉頭炎、喉頭「ザフテリー」、潰瘍性喉頭炎、「アフタ」性喉頭炎、軟骨膜炎ヲ鑑別シナケレバナラナイ。

「カタル」性喉頭炎ハ、主ニ前驅期疾患デアリ、此時期ニ特有ナ症狀デアル。屢々後期ニモ來ルコトガアリ、第一ニ「クループ」ニ對スル診斷の困難ヲ齎ス。症狀ハヨク知レテキルコトデアルガ、特ニ「クループ」ノ鑑別ニモウ一度述ベル。音聲ハ、純、或ハ少シク啞レ、咳嗽ハ犬吠性、屢々粗ニシテ、喘鳴ハ高ク雜音ガ多イ。

「クループ」ハ發疹消褪後ノ合併症トシテ出現スル。例外トシテ前驅期ニ見ル。斯様ナ場合「カタル」性喉頭炎ト鑑別困難トナル。喉頭「ザフテリー」ノ時ニハ、併シ咳嗽ハ強ク啞レ、無音ニサヘナル、音聲ハ同様ニ啞レ、狹窄ハ屢々膜襞動搖(Membranflottieren)ヲ伴フ。「クループ」性呼吸型ハ、吸氣ノ頂上ニPauseガアル。確實ナル診斷ハ、膜ノ證明ニヨツテ行ハレル。膜襞動搖ノ雜音ハ特有ナモノデハアルガ、濃縮セル分泌物ト間違ハレル事ガアル。前ニモ述ベタ如ク、「ザフテリー」菌ノ培養ハ、絶對的ニ信賴ヲ置ケル補助手段デハナイ。臨牀的所見ハ多ク動搖シ、日ニ日ニ變化スル。

潰瘍性喉頭炎ハ、發疹ノ消褪後ニ現ハレル。此診斷ハ生時ニハ餘リ判ラナイシ、又頻度モ少イノデ困難デアル。主ニ肺合併症ニヨル死亡例ニ於テ見ル。特有ナコト、シテ、數日ヲ通ジテ變ラナイ頑固ナ啞聲デアル。多ク目立タナイ症狀ヲ呈シ、第一ニ末期「ザフテリー」ト似テキル。又兩者ハ重症殊ニ肺合併症患者ニ發見サレル事ニヨツテ、鑑別ハ益々困難トナル。又發生ノ時期ガ同ジデアル。培養ニ關シテハ前言アリ。

「アフタ」性喉頭炎ヲ診斷スルニハ、同時ニ「アフタ」性口内炎ガ存在スル場合、動機付ケラレル。其他ノ場合ハ「カタル」性喉頭炎ト區別ハ出來ナイ。軟骨膜炎ハ「カタル」性喉頭炎ノ如キ喉頭症狀ヲ呈スルガ、然モ頸部腫脹、疼痛其他ノ症狀ガ診斷ノ參照トナル。著者ハ此様ナ患者ハ多ク重症患者ニ於テ見テキル。

最後ニ、患兒ハ多ク、非常ニ衰弱シテキル狀態デ入院シ、他ノ症狀ガ全ク隠サレテキル爲メニ、決定的

ナ診斷ハ、屢々不可能デアル。ト云フコトヲ心ニ留メテオカネバナラヌ。

治療 最後ニ治療ノ概觀ヲ述ベルガ、ソレハ新シイ道ヲ示ス爲メデハナク、著者ノ症例ニ對スル手術操作ノ效果ト、ソレニ依ツテ惹起セラレタ合併症ニ就キ述ベル爲メデアル。治療ニハ、原因的、及ビ症狀的ノ2種類ガアルコトヲ先ヅ述ベル。原因的ニハ「クループ」ノ時ニハ、「ザフテリー」血清が見ラレ、疑ハシイ場合モ用ヒラレタコトハ自明デアル。症狀的ニハ、保存的及ビ手術的療法ヲ區別スル。保存的ニハ、第一ニ呼吸ヲ頸減シ、循環ヲ助ケルコトガ問題トナル。茲デハ簡單ニ水浴、外氣療法、祛痰劑、濕潤セル空氣ノ供給、強心劑等ヲ述ベル。手術的操作ノ上ニ、ヨリ以上ノ注意ヲ向ケヤウ。ソレハ眞性及ビ麻疹「クループ」ノ場合、其效果ニ於テ大分差ガアルカラデアル。先ヅ第一ニ死亡率ノ概觀ヲ述ベルト、麻疹「クループ」ノ爲メ、氣管切開ヲ施行セル患兒、240ノ死亡例ニ對シ21例ガ治療シテキル。治療效果ハ8%ニシテ、死亡率ハ92%デアル。此數字ハ麻疹患兒ノ氣管切開ノ豫後ガ如何ニ惡イカヲ示シテキル。之ニ對シテ眞性「クループ」ノ狀態ヲ比較シテ見ルト、1927年ニハ未ダ67%ノ死亡率ガアルガ、之ハ昨年ハ30%、25%ニマデ降ツテキル。1921年カラ1932年マデノ平均ハ40%デアル。

挿管法ニ就テハ、麻疹「クループ」ニ之レヲ施行スルノハ Kunstfehler ト看做サレタ。

次ノ根據ハ以上ノ事ヲ決定スル。患兒ハ挿管法ダケデ間ニ合フコトハ全ク稀有ニシテ、大抵ハソレヲヤツタ後デ、氣管切開ヲ行ハレナケレバナラナカッタ。挿管法ニ續イテ行ハレタ二次的ノ氣管切開ノ效果ハ、良ク知ラレテキル様ニ、一次的ノソレヨリモ大分惡イモイデアル。麻疹兒ノ喉頭粘膜ハ殊ニ過敏デアツテ、ソレ故ニ他ノ場合ヨリモ褥瘡ヲ生ジ易イノデアル。ソレデ遂ニ膜ニヨル狹窄ニ對シテデハナク、褥瘡ニヨツテノ狹窄ト戰ハナケレバナラナクナル。ソシテ遂ニ置カレタ管ハ咳出チ困難ナラシメ、肺炎過程ノ發生ヲ促ス。

氣管切開ニ對シテ適應ガ二ツアル。1) 窒息患兒ノ

場合ノ絶對適應症。2) 低下セル循環ノ際ノ心臟ノ保護及ビ吸氣障礙ノ場合ノ肺炎豫防等ノ爲メノ比較的適應。絶對適應ニ就テハ贅言ヲ要シナイ。何トナレバ、此最後の治療手段ハ、麻疹「クループ」ノ際デモ何時モ行ハネバナラナイカラデアル。比較的適應ノ場合ハ異ナツテ來ル。普通ノ「クループ」ノ時ハ、Pospischill ハ出來ルダケ早ク氣管切開ヲスルコトニ賛シテキルガ、麻疹ノ際ハ控ヘ目ニトイフ考ヘデアル。此原因ハ麻疹ノ場合ノ氣管切開ノ惡結果ニヨル。

氣管切開ノ危險ハ、コノ場合第一番ニ二次的感染ニアル。抵抗力ノ低下ノ爲メニ、麻疹ソレ自身ガ其方ニ傾イテキル。膿性ニ苔被セル氣管切開創、其周圍ノ蜂窠織炎等ガアリ、Mediastinitis マデニナツタ例ヲ見テキルシ、Anonyma ノ侵蝕ノ爲メノ出血死サヘモアリ得ル。更ニ嫌惡スベキコトハ、「カニューレ」ノ下端ニ相當シテ氣管ノ前壁ニ來ル褥瘡デアル。之ガ又二次感染ノ門トナル。其他周圍粘膜ノ炎症性腫脹ニヨリ新シイ呼吸障礙ヲ起ス。褥瘡ヲ出來ルダケ避ケル爲メニ、「カニューレ」ヲ長ク放置スル必要ノアル場合ニハ Kreisförmig 或ハ Durham 氏ノ「カニューレ」ヲ用ヒルトイイ。

氣管切開ヲ行ツタ麻疹患兒デ、殊ニ困難ナノハ Dekanulement デアル。殊ニ以前挿管ヲ行ツタ場合然リ。挿管法ニヨル創カ或ハ氣管切開褥瘡ニヨル解剖學的變化ニヨレ、或ハ精神のニヨレ、「カニューレ」ヲ拔去セントスルト、患兒ハ呼吸困難ヲ示シ、餘儀ナク「カニューレ」ヲ再ビ入レナケレバナラナクナリ、褥瘡ヲ作ル危險ガ新シク生ズル。呼吸困難ハ屢々精神の影響ニヨリ起サレルコトガアルガ、斯カル時ハ「モルフィン」麻醉ニヨリ、患兒ヲ慣ラスコトガ出來ル。

又誤嚥ノ如キ栄養困難トモ戰ハネバナラナイ。其爲ニ Kondonkanüle 等ヲ利用スルノモ一法ナリ。

最後ニ、創面ノ外觀ハ、一般狀態ノ鏡像ニナルト云フコトデアル。新鮮ナ肉芽デアルガ、柔弱ナ哆開セル創面ナルカ等ニ注意シナケレバナラナイ。

〔完〕